

かみはしか 上橋下遺跡

所在地 安城市川島町・古井町
調査理由 鹿乗川改修
調査期間 平成15年1月～3月
調査面積 600 m²
担当者 宮腰健司・成瀬友弘



調査地点 (1/2.5 万「安城」)

遺跡の環境 上橋下遺跡は、鹿乗川右岸に形成された標高約 8.8 m の沖積低地の微高地上に立地し、西側には古井堤遺跡をはじめとする「古井遺跡群」が存在する。

調査の経過 鹿乗川改修工事に伴う上橋下遺跡の発掘調査は、昨年度に引き続き今年が2年目になり、県建設部河川課より愛知県教育委員会を通じた委託事業として平成15年1月から3月にかけて本センターが行った。調査面積は、600 m²である。

調査の概要 調査区は昨年度に行った01 A区の南西側に設定された。調査区の北東側約1/4程は、01 A区でも検出されている江戸期以降の自然河道が走っている。

第1面 表土を除去した暗茶褐色面で遺構検出を行った。遺構としては、南東に位置する川島町から北西に位置する古井町に通じる現道に沿って北西―南東方向に走る6～7条の溝が検出された。また、これらの溝に直交する不定形な溝も検出されている。出土遺物が小片のため時期の決定は難しいが、中世後半から江戸期になると思われる。

第2面 鉄分を多く含む畦畔の高まりが検出される面を第2面目の遺構検出面とした。遺構としては畦畔遺構・水田・溝があり、調査区中央部を北北西―南南東方向に走るSD01・09の西側に展開している。溝肩に沿って堤状に走る幅1.2～2 m・高さ30～40 cmの畦畔には、2カ所の途切れ部分を確認されており、導水のための水口であると考えられた。水田は、SD01・09に平行する一辺8 mを測るものや、それとは方向を違え、軸線が北西―南東方向を向く一辺4 m程のものが検出されたが、西に行くほど畦畔・水田の痕跡は不明瞭となり、畦畔の切れ目などの詳細は不明である。

出土遺物は小片のため溝・水田の時期は不明であるが、SD01・09肩部分より宋銭が9枚まるとまって出土しており、古代末から中世前半になると思われる。

第3面 寄道式期の方形周溝墓2基と不明瞭な大型の落ち込みが2カ所、その他土坑・溝が検出されている。

(宮腰健司)



調査風景



土師器皿出土状態



第 1 面（北東から）



第 1 面（南から）



第 1 面（南西から）



SD01・09（南から）



第 2 面（西から）



第 2 面（南から）



第 1 面（北西から）



哇畔セクション（南西から）